

地域山林の

守人

■山林と地域生活と

浅立地区には、各戸に20〜30アールの山林と10アールの水田を貸して地域住民の生活を支えてきた歴史があります。このような歴史からも、食料の確保とともに燃料の確保のために、山林は生活と直結した重要な資源でありました。

■きつかけは災害

平成25・26年と白鷹町を大



きな豪雨災害が襲いました。浅立地区においても、郵便局付近では国道に土砂が流れ込む水害があり、「大きな財産である山林が地域の大きな危険因子になっていること」に気づかされました。

地域の山林の整備を行い、災害に強い山を作ろうと、平成26年より地元住民の有志による「浅立森づくりの会」が結成され、森林整備を実践しています。実際、山に行つてみると、急こう配な斜面に間伐などの手入れが行われていない人工林が多い状況でした。

これらの状況を解消するため、間伐を行うことで森林に太陽の光を入れ、多様性のある山林にし、多くの樹種が根っこを張り、山腹崩壊などの災害が起きにくい山林を作ることを目標に森林整備を行ってきました。

■地域の皆さんと

このような地域の山林を守る活動を続けていくために、毎年、地域住民を対象としたチェーンソーの使用やメンテナンスの講習会の実施、地域の住民にドローンなど先進技術を活用して、山林を見てもらう活動、子どもや若手を対象とし、地域の山をフィールドにハイキングを行うイベントも行っています。

このような活動を通して、浅立地区の住民の方々に、地

域の山林に関心を持ってもらえればと思っています。

■山への想い

かつて生活の中心にあった里山(山菜・燃料・家畜のエサ場等)は、時代(主に石油の普及)とともに、いつも近くにみているのに遠いものとなりました。

また、里山には戦後、生業なりわいとして植えた拡大造林があります。外国産材の輸入や不適

地への造林等もあり、山は忘れられ手つかずになった結果、山からの「悲鳴」が災害となつて私たちに山の存在を示したと考えています。

生活林の役割を終えた奥山は広葉樹の自然林に帰し、里山はみんなの里山としてしっかり手をかけ、お山の恵みを分けてもらうのが肝要と考えます。

所詮、人は山の恵み(風土)なしには生きて行けないのですから。



きくち とみお
菊地 富夫 さん

浅立在住
昭和51年より就農、現在は、水稲約8ヘクタール、肉牛約40頭を飼育する有畜複合経営(畜産と農業の複合経営)を実践。
子供のころから自己所有の山林の手入れを生活の一部として行っており、現在も地域の森林整備の中心を担っている。

林業土木の

エキスパート

もり 森林と共に



にいの ゆうだい
新野 雄大 さん

広野在住
山形県置賜総合支庁 産業経済部森林整備課 主査
新潟大学で林学を学び、卒業後山形県に入庁
治山担当4年、林道担当7年、地すべり担当2年の経歴
を持ち、白鷹町の林道や地すべりの対応に大きく貢献している。

平成19年 滝野中ノ町（林道白鷹東部線）
地すべり対応
平成25・26年 豪雨災害対応
令和4年 林道白鷹東部線 延長対応

平成25年の豪雨災害以降、白鷹町を含む県内全域で線状降水帯が例年発生し、豪雨災害が起きています。そのため、数多くの治山事業を完了してきました。ただし、災害を未然に防ぐために重要なことは、治山事業を行った後の森林の通常管理と考えます。例えば、治山ダム工事を行った後に、森林所有者が間伐や補植を行い、森林の持つ土砂災害防止機能を向上させます。その結果、森林と治山ダムの災害防止機能による相乗効果が期待され、私たちが災害から守ってくれる森林となると考えます。

■林業職を選んだ

きっかけ

父親が材木屋に勤務していたこともあり、子どもの頃から材木に触れる機会や山に関わる機会が多かったです。また、私が幼い頃は、山形県では松くい被害が多い時代で

■仕事のやりがい

私は入庁して17年になりましたが、そのうち林道担当として7年勤務しております。林業の振興による山林の健全化や木材生産量の増加を目的に、私たちは林道を作ります。林道は山岳地帯に作りますので、難工事となることが多いです。

■治山の機能

治山は、森林の持つ土砂災害の防止機能を発揮させることを目的としている一方、砂防は大きなポケットを作り、土砂をせき止めることを目的

としています。特に土質の変化があり、当初設計から変更するものが多くあります。業者と打合せを密に行い、現地にあった設計をする必要があります。大変な作業ですが、その分やりがいをとても感じています。

■異常気象への備え

にしています。そのため、治山事業とは、間伐等の森林整備や小規模な構造物を用いることで、山林の崩壊を防ぐ事業のことを意味します。間伐により地面に日光が当たるようになれば、下草が生え強靱な地盤になります。小規模な構造物により、土砂が構造物付近に溜まり、流れが緩やかになるため、大きな土砂崩れを防ぐことができます。